

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年10月17日（木）

2 確認箇所

2号機原子炉建屋（図1）

※作業状況を遠隔操作室において確認

3 確認項目

テレスコピック式試験的取り出し装置先端部カメラ交換作業の状況

4 確認結果の概要

2号機においてテレスコピック式試験的取り出し装置（以下「テレスコ装置」という。）による燃料デブリ^{※1}試験的取り出し作業が本年8月22日から実施されており、9月10日にテレスコ装置先端部が原子炉格納容器（以下「PCV」という。）隔離弁を通過し、作業着手となった。

その後、燃料デブリ把持作業の準備として、9月17日にテレスコ装置の動作確認等を行ったところ、装置先端の2台のカメラ映像（①先端治具監視カメラ、②アーム先端部カメラ）が遠隔操作室内のモニターに適切に送られてこないことが確認された。（前回確認：[令和6年9月17日](#)）

その後の原因調査結果を踏まえ、東京電力は当該カメラ2台の交換を行うこととし、模擬環境にて作業性等に関する確認作業が行われた。これにより作業の準備が整い、本日（10月17日）から「①先端治具監視カメラ」の交換作業が開始されることから、その状況を確認した。

《確認結果概要》

- ・作業は細かいステップに分けられており、作業前に遠隔操作室から現場作業員に対してトランシーバーを使用して作業内容の説明が行われ、その後、現場でTBM-KY^{※2}が実施された後、作業が開始された。
- ・作業の区切り毎に現場から遠隔操作室に報告があり、現場と遠隔操作室において情報の共有が図られていた。また、作業は2名体制で行われ、重要な作業についてはダブルチェックによる確認が行われていた。
- ・東京電力によると、「①先端治具監視カメラ」の交換作業は当日中に完了したとのこと。

※1 燃料デブリ

過熱した燃料が、燃料被覆管や炉内構造物等とともに熔融し、その熔融物が冷えて固まったもの。

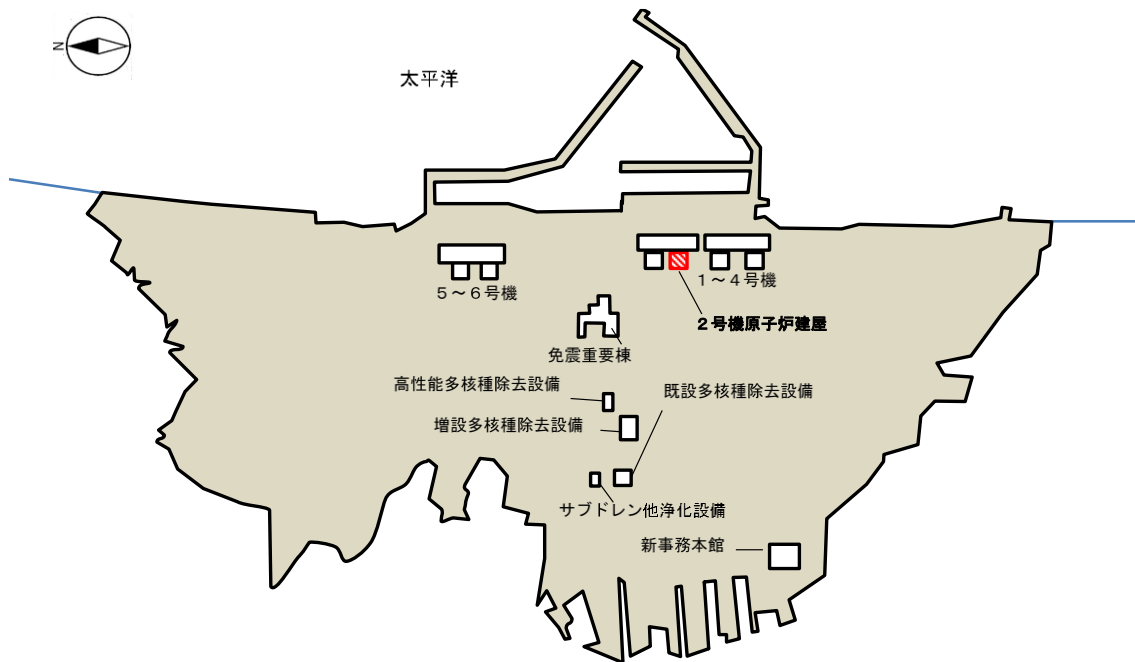
※2 TBM-KY

TBM（ツール・ボックス・ミーティング）

: 作業開始前に行う打ち合わせのことで、「ツール・ボックス＝工具箱」の近くで行われるため、このように呼ばれている。

KY（危険予知活動）

: 労働災害や事故の原因となる可能性のある不安全行動や不安全状態を「予知」「予測」するための取り組み。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータに異常な値は確認されなかった。